

## 平成18年度長崎県大学図書館協議会総会議事要旨

1. 日 時： 平成18年6月16日(金) 14:00～16:40

2. 場 所： 活水女子大学 ラッセル館2階

3. 出席館： 12館(20名)

長崎県立大学(山田、池上)、県立シーボルト大学(松永・吉村)、長崎総合科学大学(伴)、活水女子大学(宮崎、森、安藝)、長崎純心大学(岩崎)、長崎国際大学(平井、飯島)、長崎外国語大学・短期大学(岡村)、玉木女子短期大学(大浦)、長崎女子短期大学(荒木)、長崎短期大学(河野)、佐世保工業高等専門学校(牧野、吉井)、長崎大学(岡林、淵上、下田)

オブザーバー：長崎県公共図書館等協議会(長崎県立長崎図書館：奥山、一瀬)

欠席館：長崎ウエスレヤン大学

4. 配布資料： 総会資料、日本図書館協会について、学術機関リポジトリ、活水女子大学案内・図書館報

議事に先立ち、会場館である活水女子大学の森課長から、12館出席で総会は成立、よって総会を開会するとの報告があった。続いて、同大学の宮崎館長から、インターネット時代における図書館の今後の方向性を示す形で挨拶があった。さらに、代表幹事館である長崎大学附属図書館の岡林館長から挨拶があった。

また、森課長より、オブザーバーとして長崎県公共図書館等協議会から2名が出席されていることが報告された。

出席者自己紹介の後、慣例により会場館の宮崎館長が議長に選出された。

5. 議 事

(1) 平成17年度事業報告について(資料1)

(2) 平成17年度決算報告・監査報告について(資料2)

資料1および資料2について、事務局担当(長崎大学下田班長)、活水女子大学の森課長、長崎国際大学の飯島課長からそれぞれ説明があり、一括して審議がなされた。

監査館である長崎純心大学(岩崎室長)の監査報告とともに承認された。

( 3 ) 平成 1 8 年度事業計画 ( 案 ) について ( 資料 3 )

事務局担当および長崎国際大学の飯島課長から、資料 3 について説明があった。  
長崎県立大学の池上氏からの関連報告として、同大では電子ジャーナルを導入し紙媒体を中止する旨の発言があった。審議の結果、原案どおり承認された。

( 4 ) 合同イベントの開催 ( 案 ) について ( 資料 4 )

資料 4 について長崎大学の岡林館長より、学生の質の低下にともない、図書館で知識を得る必要性が出てきたこと、また地域に貢献するためにも合同のイベントを開催する意義があること等の説明があった。

事務局担当より、合同イベントの開催内容 ( 案 ) 、個別開催についてのスケジュール等の説明があった。

審議の結果、双方とも原案どおり承認され、共同イベントを実施し、個別開催について各館で検討することになった。

( 5 ) 平成 1 8 年度予算 ( 案 ) について ( 資料 5 )

資料 5 の事務局経費について、以前事務費の中に入っていたが今年度は別に算出している旨の説明が、事務局担当よりあった。

また、長崎国際大学の飯島課長より、合同イベント開催経費はそれぞれ各館に経費配分を考えているのかという質問と、次年度繰越金はそれほど余裕を持って残しておく必要があるのか、合同イベント開催経費に回してはどうか、との提案があった。

合同イベント開催経費については長崎大学の岡林館長より、来年度以降は各大学のイベントとして予算を計上していくきっかけになれば、との説明があった。

事務局担当より、合同イベント開催経費を 1 0 万から 2 0 万に増額し、次年度繰越金を 1 0 万減額し 7 万 2 , 4 8 2 円に修正したい、との提案があった。

審議の結果、修正案が承認された。

( 6 ) 総会当番校の順番について ( 資料 6 )

事務局担当より、資料 6 にもとづいて、ローテーションの説明があり、来年度の総会会場館は長崎純心大学になるとの説明があった。同大学の岩崎室長に確認したところ了承されたので、平成 1 9 年度の総会会場館は長崎純心大学であることが確定した。

( 7 ) 平成 1 8 ・ 1 9 年度役員館の選出について ( 資料 6 )

議長から投票の手順が説明されたあと、国公立大学、私立大学、短大・高専から各 1 館ずつ幹事館の選出が行われた。立会人に選出された長崎国際大学の飯島課長立会いのもと開票が行われ、国公立大学では 3 票で長崎大学が、私立大学では長崎外国語大学が 1 票に対し長崎純心大学が 4 票で長崎純心大学が、短大・高専では長崎短期大学 1 票に対し佐世保高専 3 票で佐世保高専が、それぞれ選出された。また、代表幹事館には長崎大学が選出された。

続いて監査館の投票に移った。議長から、規定により再任はできないので平成

16・17年度監査館の長崎純心大学は対象外であること、幹事館との併任もできない旨の説明があった。

開票立会人により開票の結果、県立長崎シーボルト大学が4票、活水女子大学が4票、長崎総合科学大学が3票、長崎県立大学が1票との発表があった。総会始まって以来の同点得票に、選挙はいったん中断して対応を事務局が協議。20分の休憩ののち、くじを同点館が交互に引き、印のついたくじを引き当てた方が監査館になる方式で選挙を再開した。

くじを引き当てた県立長崎シーボルト大学が監査館に決定した。

(8) その他

議長が議題のほかには何か提案がないか尋ねたが、意見が出なかったのものでそのまま報告事項に移った。

#### 4. 報告事項

(1) 平成17・18年度研修企画委員について(資料7)

事務局担当から資料7の名簿の説明があり、資料6-1について長崎女子短期大学の住所の訂正があった。

(2) 学術情報基盤の今後のあり方について(資料8)

事務局担当から資料8についての説明があった。

(3) 学術ポータル担当者研修の申込みについて

各大学の単独応募は困難なため、県大図協として応募した。厳しい条件をクリアし、全国15機関の募集枠の審査を通過し受講可能になった。8月30日～9月1日に名古屋大学での研修に、協議会を代表して長崎国際大学の飯島課長と活水女子大学の森課長が参加することが、事務局担当より報告された。

(4) 日本図書館協会評議員会について

活水女子大学の森課長より、配布資料に基づき報告があった。

(5) 各館の当面する諸問題について

各館から以下のとおり報告があった。

長崎県立大学： スタッフが削減され、補充は短期のアルバイトであることから、今後の懸念される。蔵書が現在25万冊あり、毎年1万冊ずつ増加していることから、スペースの確保のために除籍を始めた。このスペースの問題が一番である。利用者の満足度をあげ利用促進につなげるため、学生との懇談会を設けた。学生や地域の人々にアンケートを実施し、意見や要望には即対応するようにしている。「図書館に訊け!」(ちくま新書)をもじって、「図書館を使おう!」という独自の学生利用マニュアル書を作成している。県立大学としてシーボルト大学との統合に向けて、本学においても整備するものがある。Web版データベースを予算に計上して、朝日新聞

の聞蔵・マガジンプラス・ジャパンナレッジ・法律判例集等を導入した。また、O E C Dオンラインデータベースを導入した。

シーボルト大学： 本年度4月に学生と地域の住民の希望で、開館時間が8：30～21：00になった。司書4人で対応しているが、職員の健康管理が気がりである。

長崎総科大学： 年々利用者が少なくなっている。貸出こそあるが、もっと利用者を増やさなければならない。また、N I Iから雑誌所蔵確認のデータを整備する調査を実施しているが、98年新規購入分までしかできていない。それ以降の分を入力しなければならない。

活水女子大学： 学生の読書推進を図っている。学生選書の文庫本のコーナーを充実させたり、学生が直接図書館の運営に関わるような取り組みを企画したりしている。新戸町図書館では学寮に近いこともあり、寮生のための図書をそろえている。また、夏にはインターンシップの学生を他大学から受け入れている。

長崎純心大学： 本学には司書課程があるが、10・11・12月に公開講座を学外で開く予定。今年は長崎市立図書館ができるので、テーマは「公共図書館について」にする予定である。

長崎国際大学： 4月から薬学部ができて蔵書が増えてきたため改装したところ、館内が開けて見やすくなってきた。活水のように絵になる構内を持ち合わせているところはよいが、何の特色もないような本学は、予算の面でも特色あるイベントを実施するのは難しい。だが、一つ二つ考えていかなければならないだろう。また、人事異動により、職員が1人減になった。ホームページは毎月カレンダーを変えるため、メンテナンスに苦労している。

長崎外国語大： 問題が山積しているが、1点だけあげるならば開館時間の延長が学生からの希望として出ていることである。現行の19：30までの開館時間を21：00までに延長してほしいという。これは予算が伴うので、検討しなければならない。大学が山の上にあるので、特に女性が夜遅く帰るのは危険である。セキュリティの問題やスクールバスを運行する必要もあり、結局実現には至っていない。

玉木女子短大： 論文を書くのに学生がインターネットを切り貼りしている。専門図書に対し、いかに興味関心を向けさせたらよいが課題である。また、今年度は学生1人1万円の図書予算を計上した。有意義な選書・購入が当面の課題である。読書の活発化を目指していきたい。

長崎女子短大： 図書館電算システムを導入することになった。新しい機器類設置

と遡及データ入力を実施していく。

長崎短大： 人事異動で正職員1名、パート1名になり、人員削減の問題が出てきた。また、附属高校である九州文化学園が同じ敷地内に移動してきたこともあり、高校教員と高校生の利用に対しどのように線引きしたらよいか悩むところである。

佐世保高専： 図書システムの更新の時期にきている。全国国立高専図書館の拠点図書館制度の核となる長岡技術科学大学が中心となり、何年後かには同じ図書館システムを全ての高専で使用することになるだろう。それにどう移行していくかが当面の課題である。また、事務局改編により、図書係は他の係と統合される予定である。

長崎大学： 4月に事務組織が改組され、図書館部2課と総務課情報班が学術情報部に統合された。職員による学習支援として図書館利用ガイダンスを実施したところ、1,200名が受講した。また、増築工事が今年の夏に予定されており、8月12日～31日の間は休館になる。さらに、アスベストの除去工事が8月～10月ごろに予定されており、その間に休館することがあるかもしれない。

県立図書館： 築40年経つが、現在その存在意義を問われるようになってきた。日図協の役員メンバーも加えたあり方懇話会を開催し、答申を出す予定である。市町村の支援のため、イベントも行ってきた。円滑な図書館運営のためには職員の資質向上が必要であるが、3～4年で人事異動があるので人材を育成することもできない。根幹の部分である職員体制が問題になっている。

最後に、来年の総会会場館である長崎純心大学の岩崎室長より挨拶があった。

なお、閉会后、希望者のみ会場館である活水女子大学の構内および図書館を見学した。